

セカンドスクールに向けて その1 「高速道路の巻」

自然豊かな農山村等に長期宿泊し、普段の学校生活(ファーストスクール)では体験できない学習活動を授業の一部として行うというコンセプトで、平成 27 年にグッドデザイン賞を受賞した武蔵野市のセカンドスクール、本校では長野県北安曇郡白馬村を本拠地とし、

- ①よりよい人間関係の形成を育む活動を通し、集団の一員としての自覚を育て、責任ある行動や互いに協力し合うことの大切さを学ぶこと
- ②農業体験活動、自然体験活動、農村ふれあい体験活動、地域巡りを通し、白馬地域の特性や課題に気付くとともに、地元の暮らしや観光事業などを視点とした地域振興について考える。
- ③主体的に課題解決しようとする力を養うこと を目的として実施しています。

白馬村は長野県の北西部、白馬三山を眼前に、北アルプスの峰々が美しい山容を見せて連なる雄大な光景が広がり、姫川に沿って北に進めばほどなく日本海が広がるという場所です。本校から白馬村までは、およそ 270km の距離があります。観光バスに乗ってのんびりと一般道を行くとすると8時間ほどかかる距離ですが、昔ならいざ知らず、今は現実的ではありませんね。ここは当然のことながら、時間の短縮が可能な「高速道路」を使うこととなります。通常、ナビや地図アプリ、交通経路案内アプリ等で自動車による移動を検索する場合、所要時間に



関係する平均速度は、一般の道路で時速 35~40km、高速道路だと時速 70~80km に設定されている場合が多いようです。その設定速度で本校から一番近い調布インターチェンジから、白馬村に近い安曇野インターチェンジ（以下 I.C.）まで、「高速道路」を使うとすると、なんと！一般道路で約8時間の行程が約4時間半とほぼ半減します。渋滞さえなければ、遠距離移動で使わない手はありません。というか、使わなければセカンドスクールの日程がこなせませんね。

ところで、「中央高速」という名称なのですが、これは開通当初の呼び名で、現在は「**中央自動車道**」と呼ばれています。開通当時はまだ施設・設備に安全面で不十分なところがありましたが、「高速」の二文字がドライバーを惑わせたのか、速度超過に関わる大事故が多発しました。そのため、誤解ないように「高速」の名を外したということです。ちなみに、中央自動車道の制限速度は一部区間を除いて時速 80km となっています。また、路線名で分類すると、調布 I.C.から大月 I.C.までが富士吉田線、大月 I.C.から岡谷 I.C.までは西宮線、岡谷 I.C.から安曇野 I.C.までが長野線（道路名は長野自動車道）ということになっています。

中央自動車道は、海沿いの東名高速道路とは違って、山岳地帯を縫うように走っていきます。東京からだと、小仏峠、笹子峠、富士見峠、塩嶺峠と、いくつものサミットを越えていきます。険しい道であるがゆえに、峠越えの前後の景色は変化に富んだものとなります。山を越えるたびに新しい風景が展開し、飽きることはありません。特に笹子峠を越えた後に見える南アルプスを背景とした甲府盆地の光景や、中央道最高地点である標高 1015mの富士見峠付近で見える八ヶ岳の雄姿、塩嶺峠を越えた後に広がる北アルプスの峰々の光景などは感動的ですらあります。このように、山岳地帯を貫いて走るこの道路は、千変万化の景色を楽しませてくれます。

週末や連休の時期には渋滞情報でしか登場しない印象すらある中央道ですが、それも景勝地・観光地を控えた立地条件ゆえのことなのでしょう。また、「中央フリーウェイ」という歌にもあるように、市街地では自然だけでなく、競馬場やビール工場などの施設も目にすることができますから、トンネル内以外では車窓の風景に飽きることはないでしょう。調布 I.C.から安曇野 I.C.まで約 200 km、そこから先は、かつて「塩の道」と称された千国街道を北上していきます。休憩を入れながら片道約4時間半、ただ漫然と座っているだけでなく、移りゆく車窓の景色を堪能してみてもいいでしょう。

